

## <会員による自著紹介>

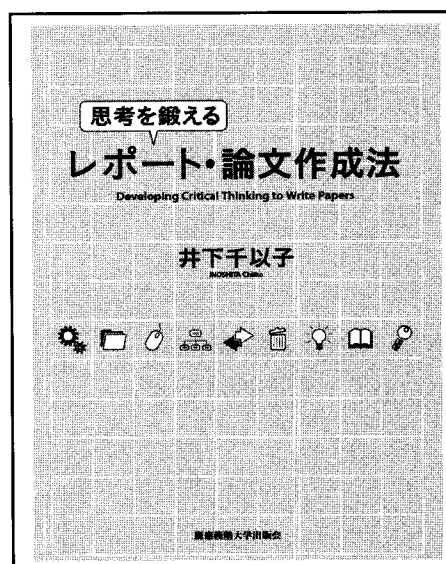
# 思考を鍛えるレポート・論文作成法

井下千以子

桜美林大学

慶應義塾大学出版会（2013年発行）

定価 1,200円（税別）



本書は、「大学の学習で大切なことは何か」という問いかけから始まります。

大学でレポートや論文を書く究極の目的は、学問の思考法に学び、テーマと向き合い、深く考え抜く経験をすることにあります。レポートや論文の書き方には、学問分野の思考様式(ディシプリン)が埋め込まれています。構想をじっくりと練ることが、思考を鍛えます。

優れた論文は、主張が極めて明瞭です。自分は何を主張しようとしているか、余計なものは捨て、重要なことを残す。そうすると、自分の書こうとしていることがだんだんと見えてきます。

書くことは容易なことではありません。知力だけでなく、時間も体力も必要です。これでよいのか、徹底して最後まで粘り強く考え抜くこと。このことが人を育てます。

本書の前半では、学生が持っている知識や経験をもとに、携帯電話やスマートフォンなど身近な話題を用いて、自分で考え、自分の言葉でレポートが書けるよう段階を踏んで説明しています。

何をどう調べればいいのか。信頼できる情報とは何か。情報をどう組み立てていくのか。論点の絞り込みから、レポートの定型的な表現まで、無理なく、基礎固めができます。基礎ができていれば、次の段階の研究レポートや論文を書くことにも挑戦できます。

この本の特徴は、レポート・論文の型を図解し、自分がめざすレポート・論文の型はどれか、全体像を構造的に把握できるようにしたところにあります。「どう書くか」というパターンだけでなく、「なぜ、書き方にはルールがあるのか」を理解させることによって、どんな課題にも対応できる思考力を鍛え、本物の書く力を身につけることができるよう、わかりやすく解説しています。また、ループリック(評価表)を用いて、自分のレポートをセルフチェックできるようにしました。

大学入学前の高校生から、初年次の大学生、大学院生まで、幅広い読者を想定しています。

授業やゼミのテキストとして、課題図書として、学習道具として、いつもそばに置き、わからなくなったら何度も繰り返し読み、書く力を磨き、思考を鍛えていってほしいと思います。